

武蔵中-対策法

国語 (100点/50分)

【1】【 2006年出題内容 】

昨年に引き続き短めの物語文(リリー・フランキー「東京タワー オカンとボクと、時々、オトン」約 4600字)が出題されました。この作品は、筆者が自らの生立ちを振り返る形で進んでいくため、表現が若干客観化されており、心情を把握するのがやや難しくなっています。例年通り自由記述式(字数制限なし)が中心です。下に問題の一部を掲載していますが、問いは全部で8題、そのうち6題が「説明しなさい」という形式の問いになっています。

<2006 年度設問抜粋>

問一 「テレビの中でしか見たことのない家族の食卓の風景に、ボクは緊張した」とあるが、どうしてこのように緊張したのですか。説明しなさい。

問二 「でも、前野君のお父さんに貰ったその時計だけは、腕時計をしない今でも、たまに時計店にメンテナンスに出して大切にしている」とあるが、なぜこのように大切にしているのですか、説明しなさい。

問三 文中にある次の語の意味を答えなさい。

(一)「しどろもどろに」 (二)「いけしゃあしゃあ」

2006 年では、それまでの漢字の設問に代わり、語句の意味を問う設問が出題されました。武蔵に限らず、最近の国語の試験委員の先生は「日本語の崩壊」すら感じておられるようです。例えば、単なる抜き出し問題でさえ、正確に写し取れない生徒が増えているのです。その意味で、漢字を知っているかどうかよりも、語句を使いこなせるかどうか、という観点から学習法を見直していく必要があります。

【2】【 傾向と対策 】

記述について字数制限はありませんが、思いついたことを適当に並べただけでは得点に結びつきません。「説明しなさい」という問いに対してはいろいろな角度から考えて答えることが必要です。

武蔵の記述対策には、自分で文章の組み立てを考えて実際に書き、それを自分で読んで論理が通っているかどうかを検証する訓練が有効です。頭の中で考えていることを文章に書き出してみると、客観的に自分の頭の中を見ることができます。頭では論理的だと思っても、書き出してみれば筋が通っていないことがしばしばあります。これは辛い訓練ですが、選択問題の多い問題を何題解いていても武蔵には合格することはできません。また、授業でやった問題をやりっ放しにするのもいけません。まとまった文章について、自分自身の頭で考えて要約文を書く訓練が必要です。

そのためには、まず、書くことに慣れましょう。最初のうちは書いたものを先生や親に読んでもらい、論理的かどうかを指摘してもらうのがよいでしょう。書くことに慣れてきたら、次は書き直してみましょう。書き直して筋が通るようになれば、武蔵合格まであと一歩です。最終段階では、本文からキーワードを抜き出し、それらを組み合わせて論理的な文章を書いてみましょう。試験時間 60 分はあまりにも短いですから、時間内で解き切るには、自在な表現力・論理力を身につけておくことが必要です。

武蔵記述 対策法



解きっぱなし・読みっぱなしにしない

⇒まずは要約文を書くことに慣れましょう

⇒論理的にまとめられているかどうか先生や親に見てもらいましょう



自分が書いた要約文を書き直してみましよう



本文からキーワードを抜き出し、それらを組み合わせて論理的な文章を書いてみましょう



【3】【 武蔵国語 合格への道程 】



合格可能性 80%



合格可能性 50%



合格可能性 10%

偏差値 (四谷) 君の学年	46~50	51~55	56~60	61~65
5年生の2学期				
5年生の3学期				
6年生の1学期				
6年生の2学期				

武蔵の 80%合格圏(4科)は、四谷大塚で偏差値 61 以上、センター模試で偏差値 63 以上、サピックスで偏差値 53 以上、が目安です。

国語が安定していないと麻布の合格は見えてきません。麻布の国語で合格点を取るためには、左の図の実線のように成績が伸びていくことが理想的です。これに対して、6ヶ月以上も点線のように偏差値が伸び悩んだままで、初めは晴れマークでも、結局は雨マークになってしまいます。国語の対策法をもっと具体的に知りたい人は、

⇒ [永田先生\(日能研\)の国語教室](#)

⇒ [国語偏差値20アップ学習法](#)

を見てください。